

① **研究課題名**：可逆性脳血管攣縮症候群における頭部MRIのArterial spin labelingの有用性の検討

② **研究の目的**：可逆性脳血管攣縮症候群（reversible cerebral vasoconstriction syndrome; RCVS）とは、急に雷鳴頭痛と呼ばれる頭痛が起こり、脳の血管の痙攣性の収縮（攣縮）を伴うものです。RCVSの診断は攣縮を確認するために、通常MRA検査を行います。この頭痛症状が起こった時点の頭部MRA画像では正常所見を呈し、やや遅れて血管攣縮の変化が出現することが多く、現在のMRA画像では診断が遅くなることがあります。近年、頭部MRI検査のうち、Arterial spin labeling (ASL)という撮影方法が開発されました。ASLでは、血流が低下している部分に分かるため、早期にRCVS診断が可能と考えられます。今回の研究は、ASL検査画像がRCVSの早期診断や経過観察に有用かどうかを検討するものです。

③ **研究期間**：西暦 2020年2月～ 2020年12月31日

④ **研究実施施設及び研究責任者**

- ・名古屋市立東部医療センター 研究責任医師（研究代表医師）：脳神経内科 加納裕也
- ・公立陶生病院 研究責任医師：脳神経内科 湯浅浩之

⑤ **研究の対象**：名古屋市立東部医療センター脳神経内科又は公立陶生病院脳神経内科において、2019年1月1日から2019年11月30日までの間に、RCVSと診断され、MRA検査及び頭部MRIでASLを撮影された方。

⑥ **調査項目**：初回受診時からRCVS診断後4ヶ月までの下記の情報を調査します。

- ①基本情報：RCVS診断年月日、初回受診時における頭部MRI・MRA検査時の年齢、性別
- ②治療情報：治療薬剤、症状の経過、転帰
- ③頭部MRI (ASL画像)・MRA画像：脳実質の状態、血管の攣縮所見

⑦ **研究の方法**：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。得られた情報及び頭部MRI (ASL画像)・MRA画像は、名古屋市立東部医療センター脳神経内科へ提供され、集計・解析されます。

⑧ **研究成果の公開**

英文の医学雑誌で公表することを予定しています。

⑨ **個人情報の保護**

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて登録されます。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。この研究に用いるデータからあなたの情報を削除いたします。削除のお申し出をされた場合であっても、あなたが不利益を受けることはありません。

⑩ **利益相反**

本研究の計画・実施・発表に関して可能性のある利益相反は存在しません。

⑪ **問い合わせ先**

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	脳神経内科	加納 裕也 TEL : 052-721-7171 (代表)